

事業コード	H18-建-継-34		区 分	国庫補助 県単独
事業名	広域河川改修事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	河川改修		班 名	河川・海岸・防災班 (tel) 018-860-2515
路線名等	田沢湖		担当課長名	佐々木 卓郎
箇所名	仙北市田沢湖		担当者名	主幹(兼)班長 菅原 俊幸
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施策名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	06	施策目標(指標)名	河川整備率

1. 事業の概要

事業期間	H13 ~ H23 (11年)		総事業費	40.3億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	延長L=5,350m						
事業の立案に至る背景	田沢湖は昭和14年の玉川河水統制計画により発電を行っているがこれに伴う水位変動により湖岸の侵食が進行している。既設護岸はこの侵食により崩壊し、背後の県道(観光用周遊道路)、民家及び農地等が危険な状態にあるため整備を行っていくものである。						
事業目的	水位変動や季節風による湖岸浸食を防止し、自然公園としての景観の維持、周遊道路利用の危険性の解消を図るものである。						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	4,030,000	4,030,000	0			
	経費 内訳	工事費	3,703,000	3,703,000	0		
		用補費	25,900	25,900	0		
		その他	301,100	301,100	0		
	財源 内訳	国庫補助	2,015,000	2,015,000	0		
		県 債	1,813,000	1,813,000	0		
		その他	0	0	0		
一般財源		202,000	202,000	0			
事業内容	築堤、護岸工 用地補償	築堤、護岸工 用地補償					
事業の進捗状況	全体計画	40.3億円	平成17年度末投資額	30.7億円	事業進捗率	76.2%	
事業推進上の課題	特になし						
関連する計画等	あきた21総合計画の中で災害に強い地域づくりの推進に位置づけられている。						
情勢の変化及び長期継続の理由	県予算を集中投資し当初計画通りに実施しているところである。地元からは護岸崩落により、自然環境の悪化や田沢湖観光への悪影響を防止するため、湖岸崩落対策の早期完成が求められている。						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	河川整備率					
	指標式	河川整備率 = 改修延長 / 要改修延長					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	44.2 %		データ等の出典	県河川砂防課		
	実績値 b	44.4 %					
達成率 b/a	100.5 %		把握の時期	平成18年 3 月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	地元からは、自然環境の悪化や田沢湖観光への悪影響を防止するため、湖岸崩落対策の早期が求められている。	9 点
緊 急 性	湖岸侵食により湖周道路等への危険性が高まっており、早期対策が必要である。	13 点
有 効 性	あきた 2 1 総合計画に位置づけられており、対策により自然環境の悪化防止などが期待できる。	18 点
効 率 性	(費用対効果) 事業の費用対効果は 1 . 6 5 であり効率性は高い。 (コスト削減の取り組み状況) 盛土材に他工事の発生材を利用するなどコスト削減を図っている。	11 点
熟 度	(地域の状況) 地元自治体で「田沢湖湖岸崩落対策特別委員会」を組織するなど湖岸侵食に対する関心が高い。 (環境対策) 自然石護岸として表面を被覆し、在来種の植生を導入	20 点
判 定	ランク () 田沢湖は秋田県を代表する観光地であり、事業実施済み区間について景観及び周遊道路の保全について、すでに効果が発現しており、地元からは未実施の護岸崩壊区間について継続実施の要望は高く、事業の重要性は高く評価出来る。	71 点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 河川改修事業

事業コード (H18-建-継-34)
箇所名 (仙北市田沢湖)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要		
必要性	想定氾濫区域内の状況						
	浸水戸数	50戸以上 49~10戸 10戸未満	10 7 3	3			
	浸水面積	60ha以上 59~10ha 10ha未満	10 7 3				
	重要な公共施設	3施設以上 2~1施設 無し	5 3 0	3			
	整備計画の策定						
	関係者、関係機関との調整	整備計画策定済み 協議中であるが特段問題ない 策定に着手していないが予定がある 予定無し	5 3 1 0	3			
	計		30			9	
	緊急性	災害発生危険度					
		改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満 40~59% 60%以上	10 7 5		10	
		秋田県水防計画					
重要水防地域		評定基準区分A 評定基準区分B	5 3	3			
計			15		13		
有効性	上位計画への貢献度						
	あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い 施策目標に間接的に貢献する 施策目標とは別のその他関連事業である	5 3 0	5			
	河川整備の有効性						
	安全度	災害防止等効果が発現する 災害防止効果は現状と変わらない 安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	7 0 5	7			
	親水性	親水性は現状と変わらない 都市計画区域の存する地域	0 3				
	地域開発の状況	地域開発の計画がある 予定無し	1 0	1			
	計		20		18		
効率性	事業の投資効果						
	費用便益比(B/C)	2.0以上 1.0以上~2.0未満 1.0未満	5 3 0	3			
	事業実施コストの縮減						
	該当項目数	3項目以上 2項目 1項目 無し	5 3 1 0	3			
	当初計画との比較						
	当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加 10%以上30%未満の増加 30%以上の増加	5 3 0	5			
計		15	11				
熟度	環境との調和への配慮状況						
	環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮が不十分で検討している 特に配慮はない	5 3 0	5			
	地元との合意形成の状況						
	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている 意向が強く要件の同意を概ね得ている 意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	5 3 1	5			
	事業の進捗状況						
進捗率	計画より進捗している 概ね進捗(90~100%未満) 計画より遅れている(90%未満)	10 5 3	10				
計		20		20			
合計			100	71			

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		計画流量等判断できない項目がある。
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		